

ご意見ご連絡は下記どうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会報」読者の皆様へお知らせ

2014年8月18日から連日13回にわたり、北海道新聞の夕刊紙面の、「私のなかの歴史」で、「ヒグマ研究45年」と言う題で、私(門崎允昭)が、私の「ヒグマについての考え、人と熊の共存策」等を口述、編集委員の「中尾 吉清」さんが取材文章化し、掲載されました。それをここに再掲載致しますので、ぜひ、お読み下さい。

2014年(平成26年)8月18日(月)

私のなかの 歴史

みなさん、今年4月、檜山管内
せたな町で山菜採りの女性がクマ
に襲われ、けがをした事件を覚えて
いますか。

同行の男性がナタで追い払った
のですが、ナタに付着した血液の
DNAからほぼ1年前に同町で女
性を襲って死亡させたのと同じク
マだと分かりました。

「人を恐れない危険なクマだ」と、
大勢のハンターと道の防災ヘ
リコプターとで異例の大捜索を展
開しましたが、発見できませんでした。
ね。

同じヒグマが連続して、あるい

動物学者

かどさき
門崎

まさあき
允昭さん



38年(昭和13年)、帯広市生まれ。帯畜大大学院で獣医学修士、北大で農学博士取得。専門は、陸生脊椎動物の生態と形態。70年から99年まで北海道開拓記念館研究員、学芸員。99年から北海道野生動物研究所・北海道熊研究所長。著書に「ヒグマ」(共著)「野生動物調査痕跡学図鑑」「アイヌの矢毒 トリカブト」など。札幌市厚別区在住。

ヒグマ研究45年 ①

は間を置いて人を襲った事例は、
1970年以降の北海道で今回を
含めて5例。過去の4例の概要は
次の通りです。

70年7月、日高山脈を縦走中の

北海道の宝物

共存するための手だてを

福岡大学ワンダーフォーゲル部員
5人がカムイエクウチカウシ山で
3日間にわたって襲われ、3人が
亡くなりました。



登山者との遭遇を避け、雪渓に身を潜め様子をうかがう若いクマ

76年6月、千歳市の風不死岳で
6日間に森林作業、山菜採りの5
人が襲われ、2人が死亡、3人が
けがをしました。

翌77年、大成町（現せたな町）
で5月に山菜採りの人、9月に釣
りの人が襲われ死亡しました。

99年5月、渡島管内木古内町で
川釣りに行った1人が死亡、山菜
採りの2人がけがをしました。

こんな話をすれば、「クマはや
はり恐ろしい」と不安をおおるか
もしれませんね。しかし、決して
そうではありません。70年から45
年間で、ヒグマによる人身事故（ハ
ンターを除く）は年平均1件程度。
大まかに言うと、北海道に約2千
頭のヒグマがいるので、1年間に
人を襲うヒグマの存在率は2千分

の1、となります。

この率をさらに下げることが可
能です。被害を予防する手だてを
実行すれば、人間とヒグマとの共
存ができるんです。

ヒントは、今回のせたなの事例
にあります。男性がナタで反撃し
て痛い目に遭わせたことです。ク
マは、人間の怖さを学びました。
そして、人目を避け、奥山に身を
潜めてしまいました。

ですから私は、あのクマは「も
う決して人を襲わない」と断言で
きます。今なお人を恐れないとい
うなら、いくらでも目撃されたり
被害が出ていますよね。

過去の4例でも、最初の被害者
がナタなどで反撃していたら、自
身がけがをしたり命を落とすこと

はなかった。2度目、3度目の被
害が起きることもなかった。私は
そう考えています。

過去4例の加害クマはいずれも
駆除されました。今回のクマもと
ことん追い詰めて駆除すべきでし
ょうか？ もう人に害を及ぼすこ
とはないから追い詰めないでほし
い。そう願っています。

ヒグマは見る者に、畏敬の感情
を覚えさせる生き物です。特別な
オーラというか、靈気を放ってい
る。母グマの愛情に満ちた子育て
にも心を打たれます。アイヌ民族
は、ヒグマをカムイ（神様）と呼
びました。私も、北海道の宝物だ
と思います。

70年にヒグマ研究を始めて45
年。ヒグマとの共存は可能だと学
びました。どうしたら共存できる
か、ぜひ知っていただきたいので
す。
（聞き手・中尾吉清）